

長寿の湯



「ここで、空(から)になる」
お湯に浸かると、ふっと力がゆるむ。湯気の向こうで、日常が少し遠くなる。水の重さや、あたたかさに身をあずけて、ゆっくりほぐれていく。からっぽになって、また日常へ戻っていく。
長寿の湯は、そんなひとときに、そっと触れられる場所です。



銭湯絵とペンキ絵師

山本 奈々子さんは、日本でも数少ない「銭湯ペンキ絵師」の一人。

男湯の壁面には巨大な富士山(女湯の壁面には赤富士)が力強く描かれています。富士山と地域の名勝を描いた銭湯絵は長寿の湯ならではの価値あり！



生き生きとした表情の山本さん



空間設計コンセプト
1 「まちの縁側」
長くまちの人々に愛されてきた長寿の湯の再開にあたり、これまでの歴史や温かみを大切にしながら、より多くの人が気軽に立ち寄れる場所を目指しました。
施設全体を「まちの縁側」として捉えなおし、そのシンボルとなる交流スペース「縁側ホール」を新たに設けています。



銭湯の象徴でもある番台



来館者が自由に行き交い、思い思いに滞在できるエントランス空間(縁側ホール)

2 「人が行き交う癒しの空間」
お風呂の利用だけにとどまらず、施設全体をゆるやかにつなぐことで、食事や地域のイベントなどに参加したりと、訪れた人々のそれぞれの過ごし方が自然に重なり合う空間を創出しました。人と自然が行き交う「まちの縁側」は、長寿の湯のこれまでの記憶を引き継ぎながら、人々の日常に新たな魅力を生み出していく、地域に開かれた新しい銭湯のカタチです。



開放感あふれる大広間の和室「ふれあいの大広間」(休憩スペース)



既存の設備を活かした、バーカウンターエリア(軽飲食、アルコール提供)

新・長寿の湯 誕生
令和7年4月、惜しまれつつも休業した長寿の湯が、民間事業者による運営のもと、新たな「まちの銭湯」として生まれ変わり、令和8年7月より営業を再開しました。
銭湯は、地域住民の皆さんの生活を支えるだけではなく、人と人との関係性を緩やかにつなぐ大切な「社会的インフラ」としての役割を担っています。地域の皆さんに永く愛される施設を目指して、新しくなった長寿の湯の魅力を紹介します。



長寿の湯

ロゴデザインの制作
地域に愛された長寿の湯の名称を継承し、新たな価値観からロゴデザインを構築。中を空(から)にして器とする瓢箪(ひょうたん)をモチーフに、お湯に浸かって空っぽになつて欲しい。との思いを込めたデザインに。

「だれもが、清潔で気持ちのいいお風呂に入れる社会をつくる」
新たな長寿の湯を運営する、株式会社ゆつむぎ。代表である小川紗理奈さんに、施設再開にかける思いを聞きました。



小川 紗理奈さん

「このたび、長寿の湯を「まちの銭湯」としてリニューアルさせていたただくことになりました。」

これからの長寿の湯は、地域の皆さんが日々の暮らしの中でふらりと立ち寄り、自分を空(から)にできるよう、また、人と人、人と地域がゆるやかに紡がれていく場となるよう、気持ちのいいお風呂を沸かしてお待ちしております。

長寿の湯を通じて、「まちの銭湯」という文化がこれからも途切れることなく、この地域に続いていくことを願っています。」

INFORMATION

利用時間
平日 午前10時～午後11時
土日 午前7時～午後11時
※最終入場 午後10時15分
定休日 月曜日
料金
大人(12歳以上) 460円
中人(6歳以上～12歳未満) 200円
小人(6歳未満) 100円
※サウナは別途300円(一律)

9月2日 グランドオープンイベント！

グランドオープンから、全ての地域の人が利用できます。

イベント内容

- ▼期間 9月2日(水)～6日(日)
- ▼内容予定
- ・牛乳石鹸のミニメント展示(コラボレート企画)
- ・トークセッション

※最新情報は、市ホームページなどを確認してください。



イベント展示イメージ

問い合わせ

○長寿の湯 0287(47)7765
○健康増進課 0287(62)7197



市ホームページ